

皆様

このたび科学研究費補助金・新学術領域研究「ヘテロ複雑システムによるコミュニケーション理解のための神経機構の解明」および基盤研究 (S)「身体図式を基礎とした動的イメージ生成の脳内メカニズムの解明」、JST ERATO 浅田共創 知能システムプロジェクトが共同で、下記の通り講演会を開催いたします。

講演会のお知らせ

日時：3月11日（金）14：00～17：00

場所：京都大学吉田キャンパス工学部総合校舎 111 教室

参加費：無料（事前受付不要）

プログラム：

14:00-15:30 田邊宏樹先生（生理学研究所心理生理学研究系・助教）

『二台の機能的 MRI 同時計測による見つめ合い(mutual gaze)および共同注意 (joint attention)の神経基盤と二
個体間の機能的結合』

15:30-17:00 月浦崇先生（東北大学加齢医学研究所・准教授）

『顔と名前の連合記憶に関連する脳内機構－神経心理学と脳機能イメージング からのアプローチ』

講演概要：

『二台の機能的 MRI 同時計測による見つめ合い(mutual gaze)および共同注意 (joint attention)の神経基盤と二
個体間の機能的結合』

田邊宏樹氏（生理学研究所心理生理学研究部門 助教）

要旨：アイコンタクトはコミュニケーションを成立させる上で極めて重要であり、また共同注意を促進する。さらに共同注意の欠如は自閉症の有効な早期 マーカーになりうるともいわれている。今回我々は二者間の目線のやりとりと 共同注意の神経基盤を調べるため、二台の MRI それぞれに被験者が入った状態で リアルタイムにお互いの目を見られるシステムを構築し実験を行った。1つ目 の実験では二台とも健常成人のペアで、2つ目の実験では健常成人と高機能自 閉症のペアに入ってもらい、それぞれの課題関連脳活動を比較検討したのでその結果についてお話しする。

『顔と名前の連合記憶に関連する脳内機構－神経心理学と脳機能イメージング からのアプローチ』

月浦崇氏（東北大学加齢医学研究所脳機能開発研究分野 准教授）

要旨：顔と名前の連合記憶は、日常生活の中でも難しいと自覚される記憶の一つであり、特にその記憶の困難は高齢者において観察される。しかしながら、その神経基盤については、これまで十分に検証が進んでいなかった。本講演では、これまで講演者が行ってきた顔と名前の連合記憶の脳内基盤に関連する神経心理学的研究、および脳機能イメージング研究を紹介し、①どこの脳領域が 顔と名前の連合記憶に重要なのか、②その脳領域は顔と名前の連合記憶の一連 の処理の中で、どのような心理過程を反映しているのか、③その脳領域の活動 は加齢によってどのような影響を受けるのか、を示す。また、④表情、特に笑 顔の表情によって顔と名前の連合記憶に関連する脳内基盤はどのような影響を 受けるのか、についての研究も紹介する。